レッスンSPA/NO.29

テーマ：創造/現れ

SPA29/DOC/K7/05

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは主、絶対、主の聖性につねに抱かれています。

以前、全てはマインドであり、様々なバイブレーションのマインドの現れがあると述べました。またマインドは聖なるものであるが、神ではないとも言いました。マインドが創造の諸世界に存在するためには、それを活性化する生(Life)が必要です。さもないと、マインドが創造の諸世界にあることは不可能です。

マインドの様々なバイブレーションを通じて、現れとしての生があります…スーパーサブスタンス、サブスタンス、超物質、物質というバイブレーションを通じて。さて創造界にはなぜこれら全ての生のプロセスがあるのでしょうか？私は創造界について述べてきました。そうです、マインドから来るものは何であれ創造物です。しかし生の現れは創造された何かではありません。そして私たちが創造された何かと言うとき、生の現れとして、という意味です。生それ自体にとって何も新しく創造されるものはありません。生は現れとして創造されたものではなく、それらの現れの世界で誕生するものです。私たちはこれを心に留めておく必要があります。

なぜこれらのプロセスがあるのでしょうか？勿論、そこには聖なる神の目的があります。神の黙想の結果として創造の諸世界がありますが、それは目的、仕事を達成するためです。そしてその目的、唯一の仕事とはスピリットであるモナド・セルフが自己実現するためであり、それ以外の何ものでもありません。

もしスピリットとしてのセルフがアウタルキーのなかで自己実現したなら、それは目的に奉仕したことになるでしょうか？答えはノーです。もしスピリットが絶対存在のアウタルキーのなかに“留まる”なら、それは目的に奉仕していることになりません。もしスピリットが神の黙想の活動のなかでそれ自身の微細なスパークを投射するなら、それは目的に奉仕していることになります。さもないと、アウタルキーのなかで、何回も述べたように動き、振動、バイブレーションがその動き、振動、バイブレーションのなかで何も引き起こさないのなら、それはそのステートのなかで何の目的にも奉仕していないことになります。

さて、存在の諸世界のなかには生の現れがあります。それらの世界において生はその真の本質を完全に現わしています。しかし、実存の諸世界における生の現れのなかで、生は引き続き内なるセルフ・スピリット(Inner Self Spirit)としての特質を完全に現わしているでしょうか？

最初の転生においては答えはイエスです。そして、パラダイスとしてのサイコノエティカル界にいる人間について話しました。人間はまだ現在のパーソナリティーではありませんが、しかし個人として、同時にアダムでありイブである両性としての人間です。性別は逆のコンマです。なぜなら、実際それらの世界にはまだ性別は存在していないからです。しかし、性が別々に表現される能力というものはあります。そして人間はまだ再内奥のセルフの特質を完全に現わしています。ノエティカルおよびサイキカルとして二つの体です。

さて、私たちが知っている現在のパーソナリティーについてはどうでしょうか？それでは現在のパーソナリティーに何が起きたのでしょうか？現在のパーソナリティーは内なるセルフの特質を現わしているでしょうか？答えはノーです。なぜでしょうか？それに対しては以前に答えました…仕事が達成されるためです。しかしそれでは不十分です。その答えは完全ではありません。

何が原因でしょうか？生あるいは意識が制限、限界のなかに入る原因は何でしょうか？何が原因でしょうか？それは神の計画のゆえでしょうか？そうです、それはイデア、黙想としての結果です。

Page 2

しかし、意識が限界のなかに入る実際的理由は何でしょうか？

以前何回も、最大のなかにあるものは全て最小のなかにある、と述べ、また最小のものは最大のものの似姿であり、その反対も真であると述べました。創造界にあるもの全ては元型として築かれており、この元型は天上的人間(Heavenly Man)によって与えられたものです。

生が創造界で十分に表現されるためには、生はこの元型（それは創造のセルであり、言い換えれば生命の木である）を通じて現わされる必要があります。もしその構造が生命の木、創造のセルに従っていなければ、その現れには制限があります。

人間が初めて実存の世界に、パラダイスであると述べた世界に下降した時には、人間のサイコノエティカル体は完全であり、元型と完全にマッチしていました。しかし、人間がマインドの一番低いバイブレーション（それは物質のバイブレーションである）を身にまとった時、それらの美しい体は自動的に球体のようになったのです。サイコノエティカル体は小さな球体の形を取り、また肉体の良好な健康状態を示す体もまた他の二つの体と同じ形とサイズを帯びます。そして今や肉体のなかにいる現在のパーソナリティーとしての人間がいます。これが生がもはや完全には現われていない理由です。

しかし生に関する制限は、現在のパーソナリティーを転生させるその微細なスパークでさえ、その制限はその現れだけにあり、質に関してはそのスパークは同じであり違いはありません。実際、生はそのアウタルキーのなかにあって、制限のなかに入ることは不可能です。なぜなら生は決してアウタルキーを去ることはないからです。

ですから、生の微細なスパークではあっても、生における制限はその現れにおける制限であり、質に関しては同じであり、生の海と同じなのです。ですから、現れが完全に表現されるためには、現在のパーソナリティーはそれら三つの不定形の体についてワークする必要があります。実際、現れとしての私たちは二つの体となっています。なぜなら、私たちは思考の仕方および行動の仕方を現わしており、言い換えれば私たちは気持、思いのレベルを現わしています。

なぜ私たちは同時に肉体についてもワークする必要があるのでしょうか？なぜなら私たちが既に提供した多くのワークにおいて、私たちは物質についてワークをします。私たちはエーテルの様々な特質、様々なエレメントについてマスターしようと試みています。

どのエレメントをマスターするのでしょうか？物質を構成するエレメントです。様々なアークエンジェル、それぞれのエレメントを支配しているアークエンジェルのオーダーと同調するエクササイズを提供してきました。

何故これら全てなのでしょうか？なぜ同調するのはノエティカルおよびサイキカル体だけではないのでしょうか？理由は簡単です；なぜなら、その現れが限界のなかに取り込まれている間は、現在のパーソナリティーが理解できる唯一のものは影としての物質のなかにあるものだけだからです。現在のパーソナリティーは物質のなかの影にフォーカスしています。それゆえに私たちは物質に対してワークをし、マインドのそれらのバイブレーションをマスターする必要があり、全体として自分の実存、存在…特に様々なエレメントを管理している様々なアークエンジェルのオーダーによって常に支えられているこの肉体についてマスターする必要があるのです。

そうです、私たちは肉体をマスターする必要がありますが、同時に私たちは他の二つの体についてもワークが必要であり、気づきの上昇にむけてワークする必要があります。

ですから、現在のパーソナリティーが四面ピラミッドの下にある部屋のなかにいる間、

***現在のパーソナリティーはまず最初に自分自身の現れの限界、制限を認識し、自分自身の“無知”を認識するようにする必要があります。***

***もしエレメントのマスター、物質の様々なエレメントのマスターに向けて進みたいのなら、まず自分の無知を認識しなければなりません。***

**かつて、探究者が成長に向けて進みたいのなら、まず最初にするべきことは役者としてのコスチュームを脱ぎ捨てること、自分を露わにすることを恥じることなく、まとっているコスチュームを脱ぎ捨てることである、とも述べました。**

Page 3

さて探究者にとってそれは簡単です。なぜなら、部屋にいる間は何も見せないので、探究者は自分の部屋というプライバシーのなかで自分の無知を認識する必要があります。そして今やそのレベルから部屋のなかで様々なエレメントのマスターに向けての真のワークがスタートします。

いいですか、このワークはとても助けになります。これまでに提供した他のエクササイズと共にやってはいけないということはありません。

このレッスンから先、私たちは多くのエクササイズを提供します。理論はこれまでのように多くはありませんが、さらに細かいことについて、特に宇宙理論(Cosmotheory)について述べていきます。探究者であるあなた方は現在のパーソナリティーの不定形の体の再形成に向けて集中する必要があります。それ以外の方法はありません。そしてこれまでのレッスンで述べたように、部屋のなかにいる間にすることは全て、後に四面ピラミッドで行うことになるものの練習です。四面ピラミッドの底部、地面に立って、四面ピラミッドの中で行うことになるものの練習です。

しかし、あなた方は練習する必要があり、練習することによってある程度まで不定形の諸体の形を作り直すことに成功するでしょう。その結果、地面のなかの獣、時間のなかで人間が無知ゆえに創造したものと向き合うことができるようになるためです。それらの獣と直面する用意ができた時はじめて、現在のパーソナリティーは部屋のドアーを開くことができるのです。さもないと、もし現在のパーソナリティーの用意ができるまえにドアーが開かれれば、それはひどいことになります。

ですから、四つのエレメントのマスター、さらにエーテルの特質のマスターに関して部屋のなかで行うべきたくさんのワークがあります。エーテルの特質のマスターと言うとき、それは運動、感覚および刻印エーテルです；多くの視覚化（ビジュアライゼーション）が必要です。なぜなら、あなた方はエレメンタルを創造していくからであり、エレメンタルを創造するには視覚化を大いにすることが必要だからです。

以下のエクササイズは、探究者が自分の無知を認識する上で助けとなる最初のエクササイズです。しかし前にも述べたように、このエクササイズだけでなく私たちがこれまでに提供した他のエクササイズも行う必要があります。それではエクササイズをします。

エクササイズ　SPA 29/NO.1

静かに座りあなたの心を騒がせているもの全てを解き放ちます…真っ白な自分をイメージし、自分の形の境界を感じます…あなたは真っ白であり、自分の形の境界を感じています。さらにあなたは五芒星のなかで守られています…白い五芒星のなかにいます…あなたは今、闇で覆われた場所に立っていて、周囲は暗くて何も見えません…真っ白な自分および白い五芒星も役に立ちません…自分が立っている周囲が全く見えません…五感は何も助けになりません。

右に90度回転し、別の方向を向いていますが、全ては闇で何も見えません…さらに右に90度回転しますが、同じように真っ暗です…何も見えないので、自分がいる場所のリアリティーがなぜ見えないのか、なぜ真っ暗なのかと自らに問います。あなたは別の方向にトライしようと思い、左に180度回転します…しかし依然として同じです、この一番初めの位置から左に90度回転します…しかし依然として同じで何も見えません…どの方向を向いても五感は何の助けにもなりません…何も見えず、自分の周囲に何が起きているのか全くわかりません…周囲で起きていることを何も感じることができません…何故でしょうか？これまで自分が理解できたことは何だったのでしょうか？それはただのイリュージョンだったのでしょうか？それは私が何か、恐らくフィルターを通じて理解できたことなのでしょうか？私は今自分の周囲で起きていることを理解したいのです…私はそのためにワークをします、それに向かってワークをする用意ができています…右に90度回転します…初めの位置です…その初めの位置で、何が起きているのかを注意深く考えようとします…現れの限界内における現在のパーソナリティーとしてのあなたに何が起きているのかを見い出すためにワークをする準備ができている、と決断する必要があります。

Page 4

右に90度回転します…この位置で今あなたはミカエル、あなたが限界のなかに入った最初の瞬間からあなたに付き添っているミカエルに助けを求めます…彼に助けを頼みます、しかし勿論ワークはあなた自身で行う必要があります…さらに右に90度回転します…この位置でガブリエルに助けを求めます…それでは左に180度回転し、最初の位置に戻ります…この位置から左に90度回転し…今あなたはラファエルの助けを求めます。

ですから、あなたはミカエル、ガブリエル、ラファエルに助けを求めました…それでは右に90度回転し、この位置であなたの守護大天使に助けを求め、また生のスパークからの助けを求めます。生のスパークは現れ、生の現象の現れとしてのあなたを活性化します。なぜなら、今あなたは生の現象の現れであり、あなたが求めているのは生としてのセルフを現わすことだからです…さらにまたウリエルの助けを求めます、彼はミカエル、ガブリエル、ラファエルという他の三つの助けをコーディネートします。ですから、あなたはこれら全てのアークエンジェル、物質界およびサイコノエティカル界における現在のパーソナリティーとしてのあなたに付き添っているアークエンジェル達の助けを求めます…自分の無知のレベルを認識するために、限界のなかにあるあなたの現れのレベルを認識するためにワークをしますと自分自身に約束します。私たちはいつも主、絶対、主の聖性に抱かれています。終わります。

質問：

質問：それでは基本的にそれら二つのエクササイズの違いは、一つのエクササイズでは異なったアークエンジェルからの異なった光を見る練習を行い、このエクササイズではただ暗闇を経験するというものなのでしょうか、それとも…

Ｋ：いいですか、部屋のなかで、現在のパーソナリティーの墓のなかであなた方は二つの異なったカテゴリーのエクササイズを行います。一つのカテゴリーのエクササイズは現在のパーソナリティーが自分自身の現れの限界を認識できるように助けるものです。そして現れの限界というとき、それは何と比較してのことでしょうか？生の現れとの比較です。なぜなら、生には全く限界がないからです。

しかし、生の現れに関して現在のパーソナリティーとしての私たちは何を知っているでしょうか？それゆえに、現在のパーソナリティーの現れの限界を認識しようとする前に多くの知識が必要なのです。つまり比較するための基準が必要となります。そのために私たちは常に上が下に下降することからスタートするのです。私たちは常に完全であると私たちが見なすものを提供し、それゆえに完全を示す色を提供しているのです。現在のパーソナリティーにとってアプローチ可能な“完全性”です。そして私たちはそれに向かって対面する必要があります。私たちはどこに完全性があるかを“知って”おり、自分が今どこに立っているかを認識する必要があります。それに向かうための道を設定できるようにです。しかし、いずれにしても実際の事実のなかでワークが行われます。

もう一つのカテゴリーとは既に皆さんに与えた四つのエレメントのマスター、エーテルの特質をマスターするためのエクササイズです。言い換えれば、現在のパーソナリティーの不定形な体の形をもう一度形成し直すためのエクササイズです。しかし、繰り返しますが、ワークを同時に行う必要があります。たくさんの理論を提供してきました。一般的に言えば宇宙論というものは変わりませんが、何が変わるかと言えば徐々に少しずつ新しいものが加わっていきます。それによって光がより輝きを増していきます。それだけです。

Page 5

質問：あなたは前に、ピラミッドの下にある部屋にいる間にもしドアーが開いてしまうなら、現在のパーソナリティーの準備が出来る前にドアーが開いてしまうなら、それは非常にひどい結果になると言いましたね。それらのドアーは自分が意図しなくても何かの間違いで開いてしまうことがあるのでしょうか、それともそのような場合には守られるのでしょうか？過ちを犯してドアーが開いてしまうということがあるのですか？

Ｋ：間違って開いてしまうということはありません。しかし、もしあなたが自分の現在のパーソナリティーに対して不適切に働きかけるようなワークを行うなら、特にテクニカルな手段、マジックなどを行うなら、そうと知らずに開いてしまうこともあります。その理由を説明しましょう。

このレッスンで述べたように、創造の諸世界で生を完全に表現するためには、生はその元型を使う必要があります。以前、創造の小部屋（セル）と述べた構造です。現在のパーソナリティーとしての人間が限界のある現れの世界に入ると、構造はもはや元型と同じではなくなります。しかし現在のパーソナリティーとして私たちには肉体があり、その肉体は元型に従って創られています。この肉体には創造の小部屋の聖なるセンター全てがある、と私たちは見なしています。

肉体のどこにそれらのサイコノエティカル・センター、あるいは聖なるセンター…それは肉体の健康に関係があります…があるでしょうか？もしそこにあると考えるそれらのセンターに働きかける時、実際にはそれらは肉体にあるのではなく、肉体の外にあるのです。現在のパーソナリティーの不定形な形をした諸体はハートがあるポジションに位置しており、そこには小さな諸体があります。私たちがそれらのセンターにフォーカスしようとするとき、実際にはそれらのセンターは現在のパーソナリティーの諸体にあるのではありません。私たちは人間が創造したあらゆるエレメンタルが存在している海にフォーカスしているのです。実際私たちはそれらのエレメンタルに自分自身を同調させているのであり、それらは私たちを騙し、それらは私たちを助け、援助を提供します。それゆえに、あなた方が何らかのメソッドを使って練習する時、低い気づきの結果として通常あなた方が体験するのは多くのイリュージョンです。そこではある種のパワーも与えられるかもしれませんが。しかし、最終的にその現在のパーソナリティーはアンバランスな現れの状態になります。

もし私たちが聖なるセンターに働きかけたいと望むなら、現在のパーソナリティーのセンターに働きかけるべきです。そしてそれらのセンターは私たちの諸体にのみ根ざしています。私たちはまず最初にそれらの諸体を再形成しようとするべきであり、もしそれを行うなら、実際に後になって他のセンターを刺激する必要はないのです。私たちが刺激すべきセンターとは現在のパーソナリティーを構成するセンターであり、それらのセンターとはハートのセンター、太陽神軽叢、および頭のセンターであり、それだけです。他のセンターは現在のパーソナリティーのサイコノエティカルな成長の結果として、つまり諸体の再形成の結果として自動的に刺激されるようになります。

不幸にも過去においては、パワーと能力を現わす唯一の方法はマジックの使用、テクニカルな手段の使用であり他の方法はありませんでした。それらの方法だけが知られていたのです。

そうです、そのようなセンターに関して明らかにされるのは今が初めてかもしれません。これまでこれらのクラスにおいてその事実を話したことはありませんでした。もし誰かが中央の柱上にあるセンターおよび太陽神軽叢より上にあるセンター以外のセンターに働きかけるなら、そのパーソナリティーはその現れを表現する手段としての自分自身、言い換えるなら現在のパーソナリティーの諸体から離れるように働きかけているのです。それゆえに、進んで行くにつれてある特定の刺激の結果として、徐々に少しずつ新しい知識が表面に出てくる、と前に述べたのです。

質問：自分自身を見つめ、自分自身を高め、諸体の形を再形成するために、私たちはそのワークのためのエネルギー、より高いバイブレーションのエーテル・エネルギーが必要ではないかと思われます。なぜなら、私たちのセンターはハートに集まり、それはまたサイキカル体のセンターでもあるからです。私たちはたくさんのエネルギーを失っているように思えます。私たちの感じ方や自分のなかにある感情のゆえにです。私たちはまたそれらの感情次第では自分自身を高めることもできるのです。エネルギーという面からサイキカル体の上昇についてもう少し話して頂けるでしょうか？

Ｋ：過去において述べたように、肉体の健康すらこのセンターの状態に依存しています。思考、考えるという仕方ですらこのセンターに依存しています。現在のパーソナリティーは想念願望を創造せずに願望想念(desire-thought)のエレメンタルを創造します。なぜなら、私たちの想念が願望に従うからです。私たちは実際、何であれ感情、気持ちを魅惑するものにフォーカスします。

私たちは自分の影、イメージが映っている鏡にフォーカスしているのです。私たちは現在のパーソナリティーにとって有益な真の価値をもたらさないようなものに価値を与えていますが、そのようなイリュージョンにフォーカスしないようにする必要があります。物質にフォーカスすると、実際にたくさんのエネルギーを燃やすことになります。肉体の健康にとって重要な多くのエネルギーを私たちは燃やしてしまっています。それゆえに肉体の健康が損なわれ、さらにはまた他の二つの体も病んでしまうのです。

他の二つの体の病気とは何でしょうか？二つの体は肉体が苦しむように苦しむでしょうか？違います。他の二つの体の病気というとき、それは二つの体がどれほど一つになっているか、という観点からみます。私たちはそれらの病気については既に知っており、経験しています。そしてそれらの病気のなかの一つが精神分裂病、種々の精神分裂病です。

質問：私は先ほど話していたエクササイズに戻りたいと思います。瞑想している時に、私たちは自分の無知を認識しなければならない、私たちは部屋のなかで完全に盲目状態です、とおっしゃいましたが、私たちはそれを認識しなければならないのでしょうか？

Ｋ：いいですか、あなたは部屋のなかで何かを認識しようとしていますが、あなたが無知に取り込まれているのでそれは不可能なのです。そしてこれまであなたが認識してきたもの、それは何であれ五感の使用を通じて解釈できるものです。そして勿論、五感を使って解釈されたものは全てイリュージョンです。

質問：それでは私たちは何を期待すべきでしょうか？

Ｋ：徐々に、少しずつ、あなた方各人で異なっている何かを体験するようになるでしょう。

質問：ということは、そのエクササイズとは関係ないということですか？

Ｋ：違います。このエクササイズは別のことに関係しています。しかし、このエクササイズを行うことによって、あなたは徐々に何かを体験するようになります。必ず何らかの答えを得るようになります。

質問：ミカエルあるいはガブリエルの助けを求めますが、色を見るために助けを求めるのではありません。単に助けを求めているのですか？

Ｋ：いいえ、ただそこにいるためです。いいですか、あなたが要請しなくても彼らはそこにいます。ですから、彼らがそこにいることをあなたが認識するためなのです。自分自身のために、それに気が付くようになるためにです。実際、アークエンジェルたちは常にあなたと共にいます。助けを求めることによって、あなたは彼らがいつもあなたと一緒にいることを認識するようになります。

質問：別のセッションではその輝き、光を見るために彼らの助けを求め、あるいは自分を守るために助けを求めました。

Ｋ：これはそれとは別のアプローチです。今は、あなたがそこに住み、生きている“リアリティー”を認識するために、そうするのです。このリアリティーはこれまであなたがフォーカスしてきたもの、あなたの興味によって解釈されてきました。無知の結果として。

質問：直接にガブリエルからラファエルへと行く変わりに、なぜいつもミカエルへと戻ってから行くのですか？

Ｋ：それには、その順番に関しては理由があります。それは説明するという問題ではありませんが、理由があります。いいですか、創造界には不動の法則があり、これはそのなかのある法則に沿った順番なのです。

Page 7

質問：それをただそのように受け入れるべきでしょうか？それともそれについてさらに質問すべきでしょうか？

Ｋ：現在のところはただそれとして受け入れるべきです。将来、おそらくこれに関してさらに光が来るかもしれません。いいですか、ここで与えられるものは全てテクニックではありません。それは２＋２は４、というようなものです。１＋１は２、これはテクニックではなくて法則です。私の言う意味がわかりますか？そして何であれ、それら創造界の法則によって与えられるものに従うのです。あなたが“はい”と答えても、適切な結論には至らないかもしれませんが、それで構いません。たとえ間違っていても、何からの結論に至るようにしなさい。自分で考える、ということを始めるべきです…全てをそのまま当たり前のこととして受け入れないためです。いつも自分で考える必要があります。

質問：自分の前に守護大天使(Guardian Archangel)を見るとき、それは私たちに答えを与えてくれる存在ですか？

Ｋ：いいえ、それらのアークエンジェルからどのような答えも得られません。答えはあなた自身のセルフからあなたに与えられるのです。それはどのセルフでしょうか？それは完全なる現れを求めるセルフです。過去に、現在のパーソナリティーとしての私たちには現在のパーソナリティーを活性化する生のスパーク以外に、二つの小さなエゴがあると述べましたね。私たちのなかには無知のなかに留まりたいと願うセルフと生の特質を現わしたいと願うセルフがいます。それゆえに絶えざる進歩、成長があるのです。そうでなければ、人間は静止状態に留まってしまうことでしょう。ですから小文字のエゴ(ego)は二つに分かれています。私たちが思考を現わす時、私たちは同時に問いであり答えなのです。それが思考です。私たちは同時に問いと答えであり、それが続くとき“自分は考えている”と言うのです。それが実際に生じていることです。

質問：もしかしたら間違っているかもしれませんが、守護大天使は生命の木の上で聖霊側に位置するのではないかと私は感じるのですが。

Ｋ：違います、守護大天使は現在のパーソナリティーに付き添っています。それはこの下降（＊物質界への下降）を通じて下降することはないのですが、現在のパーソナリティーに付き添っています。さて現在のパーソナリティーと言うとき、実際このポジションまでは、おそらく２年前に説明したように、アークエンジェルおよび魂のセルフ・エピグノシスとの違いはありません。私たちは生命の木について分析しましたね。

EREVNA SPA29/KE7/05